

施策名	目標2-1 オゾン層の保護・回復				
施策の概要	オゾン層の状況の監視を行い、オゾン層破壊物質の生産・消費規制、排出抑制対策を実施し、さらにフロン類の回収・破壊を推進することにより、オゾン層の保護・回復を図る。				
達成すべき目標	オゾン層破壊物質の生産・消費量を削減するとともに、既に冷媒等として使われたオゾン層破壊物質の回収及び破壊を推進し、大気放出を抑制することにより、オゾン層の保護・回復を図り、有害紫外線による人の健康や生態系への悪影響を減らす。				
施策の予算額・執行額等	区分	21年度	22年度	23年度	24年度
	予算の状況(千円)				
	当初予算(a)	-	142,616	130,079	106,222
	補正予算(b)	-	0	0	0
	繰り越し等(c)	-	0	(※記入は任意)	
	合計(a+b+c)	-	142,616	(※記入は任意)	
	執行額(千円)	-	95,754	(※記入は任意)	
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)					

測定指標	1	ハイドロクロロフルオロカーボン(HCFC)消費量(ODPTon)	基準値	実績値					目標値
			元年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	32年度
			5,562	770	787	518	453	調査中	0
	年度ごとの目標値								
	2	業務用冷凍空調機器からのフロン類回収量(トン)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標
			年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
			-	3,168	3,773	3,601	3,895	調査中	増加傾向を維持
	年度ごとの目標値								
	3	業務用冷凍空調機器の廃棄時フロン類回収率(パーセント)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標
			年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
			-	27	28	30	31	調査中	60
	年度ごとの目標値								
	4	PRTRによるオゾン層破壊物質の排出量のODP換算値(ODPTon)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標
			年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
			-	3,773	4,243	3,413	4,466	調査中	減少傾向を維持
	年度ごとの目標値								

施策に関する評価結果	目標の達成状況	<p>○オゾンホールは、ほぼ毎年大規模に形成されており、現時点でオゾンホールに縮小する兆しがあるとは判断できず、南極域のオゾン層は依然として深刻な状況にある。また、ハイドロクロロフルオロカーボン(HCFC)の大気中濃度は増加を続けており、引き続き対策を講じる必要がある。</p> <p>○平成19年10月から改正フロン回収・破壊法が施行され、19年度、20年度に比べ、21年度の冷媒フロン類回収量は景気の変動等の影響により若干減少したが、22年度は再び増加傾向となった。今後も引き続き、地球温暖化対策の見地からも引き続きフロン回収・破壊法の周知徹底及び施行強化を図り、回収量の増加に努める必要がある。</p>
	目標期間終了時点の総括	

学識経験を有する者の知見の活用	中央環境審議会地球環境部会フロン類等対策小委員会及び産業構造審議会化学・バイオ部会地球温暖化防止対策小委員会の合同会議を平成23年7月に開催し、今後のフロン類等対策の課題解決に向けての対策について検討を開始した。
-----------------	--

政策評価を行う過程において 使用した資料その他の情報	平成22年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書(環境省)
-------------------------------	--------------------------------

担当部局名	フロン等対策推進室	作成責任者名	フロン等対策推進室 長 高澤 哲也	政策評価実施時期	24年 6月
-------	-----------	--------	-------------------------	----------	--------